

「防災スペシャリスト養成研修」企画検討会 第三回 議事概要

1. 検討会の概要

日 時：平成 26 年 1 月 27 日（月）10:00～12:00

場 所：中央合同庁舎 5 号館 3 階 特別会議室

出席者：林座長、岩田委員、鍵屋委員、黒田委員、重川委員、丸谷委員、日原統括官、柳橋参事官、市川教授、中林教授

2. 議事概要

資料に基づく事務局説明ののち各委員による意見交換を行った。なお、議題 1 及び 2 は併せて検討された。主な意見は次のとおり。

(1) 議題 1 「防災スペシャリスト養成のあり方検討の流れについて」

- 国・都道府県・市町村職員を対象とする「防災スペシャリスト養成」は、今年度、養成研修の体系を構築し、次年度以降で教材等の開発や人材育成強化のための支援の仕組みの構築を行う方向で進める。

(2) 議題 2 「防災スペシャリストに求める人材像と能力について」

- 地方自治体の防災担当部門では、自然災害だけでなくテロや大規模事故なども所掌している実態を踏まえ、防災スペシャリスト養成で対象とする災害も自然災害に限定せず、広く危機全般を対象としてはどうか。
- 事業継続ガイドラインは、当初、地震を危機の主対象としていたが、国際的な要求によりインフルエンザが対象化され、現在ではマルチハザードへの対応を可能としている。首長はあらゆる危機への対応が求められるため、対象は自然災害を重視しつつマルチハザードにすべき。BCP とも整合する。
- 研修で危機全般を対象化するのであれば、関係省庁を交え検討する方が良い。総務省、消防庁、国交省、防衛省などの検討会参加を呼びかけてはどうか。
- ハザードごとに対応が異なるかということではなくむしろ共通していることが多い。どのような危機事態が発生しても対応できる能力を上げることが

必要である。また、ハザードごとの固有な知識とハザードに捉われない共通的な知識があるため、その両面から学べるのがよいのではないか。

- 人材像には、「ジェネラリスト」として求めることと「スペシャリスト」として求めることがあるので、その整理が必要。
- 災害対応に求められる「マネジメント能力」と「オペレーション能力」との両方の向上をはかる必要がある。
- 身に付けるべき能力には、誰もが身に付けるべき「共通能力」と個々の業務の実施に必要となる「個別能力」とがある。幹部・一般の如何に関わらず共通能力は身につけてもらい、個別能力は関係者が学べるようにしてはどうか。
- 求める人材像や能力として「組織の中で率先して防災力を高めることができる人」を入れてはどうか。
- 復旧・復興に関する人材像が必要ではないか。
- 「計画立案能力」「情報発信・広報力」「活動調整力」はだれもが有すべき共通能力として理解される。個別能力については、予防・応急・復旧復興などの領域と各領域で求められる活動との関係から必要な能力を整理すればよいのではないか。これをもとに、我が国の人材育成の体系を整理し、災害対応の標準化の取り組みと連動して整理すればよい。
- 内閣府で作成した「地方都市等における地震対応の基本的な流れ（全体像）」では応急・復旧復興の活動として17の活動が整理されている。この活動を実行するための能力として「個別能力」を整理すれば、危機対応に求められる能力がまとめられるのではないか。
- 巨大災害が来るという前提に立ち、巨大災害に対応できる人を育てる必要があるのではないか。社会的な要求に応じた具体的な人材像を示すべき。
- 教育は、国全体の能力の強化・充実化をはかる上での基本。危機に直面しても、ひるむことなく乗り越えられるキーパーソンを育てることが求められる。

(3) 議題3 「防災スペシャリスト育成の基本方針について」

- 首長・副市長・総務部長といった行政トップの育成が何より必要ではないか。
- トップマネジメント研修は重要であり、内閣府では消防庁と連携し、行政トップ向けの研修を進めていこうと考えている。
- コース設定は、防災業務の「経験年数」ではなく、「与えられた役割（目的）」で分類した方がよいのではないか。幹部は、災害対策本部において総合調整

する立場の人、一般 A は、オペレーションのリーダー、一般 B は、初任者研修として位置づけられるのではないかと。

- 市町村の防災担当者の育成にあたる都道府県の職員を育成することも必要ではないかと。トレーナーとなる職員の育成（トレーナーズトレーニング）により、人材育成のすそ野が広がる。
- 研修において、「マネージャー」・「オペレーションリーダー」・「トレーナー」を養成するという方向で考えてはどうか。
- 「カンファレンス」は、フォローアップの場として大変良い。その実施を通じて受講者から現場のニーズをつかみ、研修の充実につなげることもできる。
- 各種能力を習得した人が、その経験や知見をもとに、マニュアルなどの文書を作成できるようになることが、最終成果の姿なのではないかと。自らの力でマニュアルの作成ができる人材を育てることが重要。

（４）議題４「第４四半期研修について」

- メーリングリストを活用し、受講生のコミュニケーションの充実を、継続的に図ることが重要。
- 異動などにより防災部門から離れても、個人として継続的につなげていくことのできるネットワークの仕組みが必要。
- コース別のカリキュラムを整理し体系化をはかるとともに、各コースにある講座ごとに、その概要や学習目標を関連付け資料として整理しておくべき。
- 必要な能力を身に付けるためには、どの講座を受講すればよいのか、一見で分かるように整理し、提示してはどうか。
- 現場の生の声を聴くことは重要であるため、被災地の自治体職員と受講者がディスカッションできる講座や場を設けてはどうか。
- この講座に限って受講したいという受講者もいる。選択式で講座を聴講できるようにしてはどうか。

以上